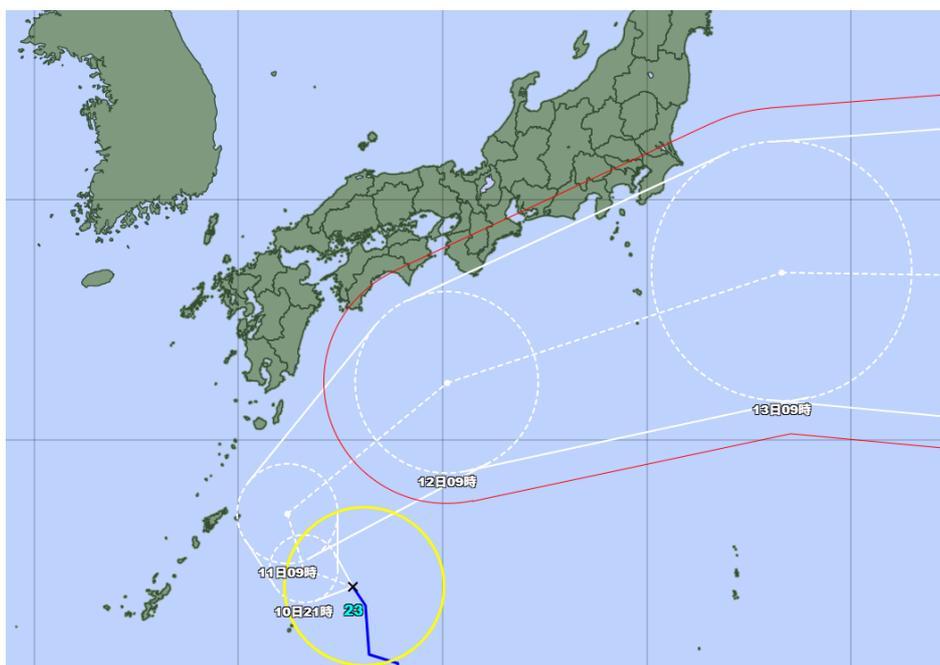


# 台風23号に対する農作物の事前・事後対策

令和7年10月10日  
農業技術課

気象庁の発表によると、台風第23号は、南大東島の北東約190キロを1時間におよそ20キロの速さで北北西へ進んでいます。12日9時には日本の南の北緯31度10分、東経135度05分を中心とする半径210キロの円内に達する見込みです。中心の気圧は985ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は30メートル、最大瞬間風速は45メートルが予想されます。予報円の中心から半径290キロ以内では風速25メートル以上の暴風域に入るおそれがあります。

12日以降は関東の南岸を進む可能性もあり、今後の台風情報、気象情報に注意し、被害防止のための事前・事後対策の徹底をお願いします。



(出展 気象庁台風経路図 10月10日10時現在)

## 共通事項

- ① 台風情報に注意し、事前対策は早めに実施する。台風の接近中は、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が収まるまでは、見回り等は行わない。また、大雨が収まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ② ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みを点検、補修する。マイカ線等による被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施する。飛来物による損傷を防止するため、飛ばされる恐れがあるものは、片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修を行う。
- ③ 台風通過後、棚や施設などのハウス骨材、ビニール、各種の装置、また、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。
- ④ 収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等からの指示に従って収穫を行い、未熟なものは収穫しない。

## 果 樹

### 〔事前対策〕

- ① 冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修する。
- ② 傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③ 収穫が終わったほ場では、マルチ等を回収する。収穫前のほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれたりしないようにマルチ押さえを補強しておく。

### ＜棚栽培果樹＞

- ① 強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
- ② 収穫が終わった園では、防鳥網を取り外すか、縛ってまとめておく。
- ③ 収穫前及び収穫中のブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④ 簡易雨除けにおいて被覆中のほ場では、強風でビニールが飛ばされないよう、補強を行う。

### ＜立木果樹＞

- ① 倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ② カキ、リンゴなどの収穫前の園では、枝揺れによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。
- ③ モモせん孔細菌病及びスモモ黒斑病対策として、防除暦に従い薬剤を散布する。細菌は強風に伴う雨で広く拡散するため、防除は台風の接近や前線に伴う降雨前に必ず行う。

### ＜施設果樹＞

- ① 施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ② ブドウやオウトウの雨除けハウス等では、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニール・防鳥網を巻き上げる。簡易雨よけは、マイカ線でビニールを固定する。

### 〔事後対策〕

- ① 園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ② 樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③ 太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤ 落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ ほ場を見回り、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦ 強風や雨により、枝葉や果実等の損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、JAの指導や防除暦に従い薬剤防除と発病果などの除去を徹底する。
- ⑧ 収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。

## 野菜

### 【事前対策】

- ① ほ場や施設周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ② ハウスや雨除け施設などの支柱や基礎などを点検、補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し施設の被害防止に努める。
- ③ ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ④ 収穫期を迎えている果実は、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。

### 【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 風雨により茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入等により、疫病、べと病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ 倒伏したものは速やかに引き起こし、この際、根を切らないように注意する。
- ④ 株元の土壌が流亡している場合は、追肥を行い土寄せを実施する。

## 花き

### 【事前対策】

- ① 野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ② 露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③ 鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

### 【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③ 茎葉の損傷により、べと病やうどんこ病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

## 水稲

### 【事前対策】

- ① 浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ② 事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③ 収穫までに期間のある作型については、水を深めに張り、株元を保護する。

### 【事後対策】

- ① 収穫までに期間のあるもので、倒伏した場合は、数株ごとに引き起こして束ねる。
- ② 収穫時期に達しているものについては、排水に努め、早めに収穫を行う。
- ③ 稲架が倒伏した場合は、なるべく早めに引き起こし、乾燥に努める。

## **大豆**

### **【事前対策】**

- ① ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ② 滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

### **【事後対策】**

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。

## **畜産**

### **【事前対策】**

- ① 畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ② 畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③ 停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

### **【事後対策】**

- ① 飼料作物
  - ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
  - ・飼料用トウモロコシの倒伏及び茎の折損等が著しく回復が期待できない場合は、青刈り利用またはサイレージ調製を行う。
  - ・サイレージ調製時には、乳酸菌等添加剤を利用し安定した発酵促進を図るとともに、利用の際は、飼料分析を実施しサイレージの発酵品質等の確認を行ってから家畜に給与する。
- ② 家畜
  - ・個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に務める。
  - ・冠水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。
- ③ 畜舎
  - ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。
  - ・堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に務める。
  - ・雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。
  - ・畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。